

下水道施設のストックマネジメント手法に関する検討委員会 設置趣旨

下水道整備の進展に伴い、平成 20 年度末現在、全国の下水道普及率は約 73% に達し、管きょ延長約 41 万 km、処理場数約 2,000 箇所におよぶ膨大なストックを有するに至った。今後これら施設の老朽化の進展とともに、施設管理費用の増大が見込まれるが、下水道は人々の日常生活や社会経済活動を支える基本的な社会基盤施設であり、計画的かつ効率的な施設管理を行うことにより所期の機能を継続的に発揮していく必要がある。

このため、予防保全的な管理を推進するとともに、ライフサイクルコストの最小化を図ること等を目的に、平成 20 年 4 月に「下水道長寿命化支援制度」を創設するとともに、「下水道事業におけるストックマネジメントの基本的な考え方(案)」をとりまとめたところである。

今後、ストックマネジメント手法の導入を促進していくためには、施設管理計画の策定に必要となる施設の健全度の評価・予測手法や事業平準化手法等の各種要素技術の確立を図っていくとともに、ストックマネジメントにおける目標設定の考え方、計画策定のための実務的な作業手順について整理することが求められる。また、現段階では多くの自治体において施設管理情報の整備が不十分であり、このような状況においても導入可能な簡易なストックマネジメント手法と、その段階的レベルアップの考え方を明らかにする必要がある。

以上を踏まえ、ストックマネジメントを推進する上での諸課題について検討し、ストックマネジメント手法導入のための手引きとしてとりまとめることを目的として、本検討委員会を設置するものである。